

日本歯周病学会専門医研修カリキュラム

<はじめに>

特定非営利活動法人日本歯周病学会「歯周病専門医」制度は、歯周病学の臨床的経験を通し、その専門的知識と技術を有する歯科医師を育成するとともに、歯周病学の発展および向上を図り、もって、国民の口腔保健の増進に貢献することを目的としています。

この制度によって本学会に認定された歯周病専門医は、日本歯科専門医機構に認定され、かつ厚生労働大臣が認めた広告可能な専門医資格です。本学会では歯周病専門医の質を担保し、高いレベルの歯周病学の専門的知識と技術を有する歯科医師を認定するために、すでに30年以上にわたって専門医試験を実施してきており、1,100名を超える歯周病専門医を育成してきました。

今般、これらの歯周病専門医が有している、また、これから歯周病専門医資格を取得しようとする歯科医師に必要な歯周病学の専門的知識と技能の修得目標を明示することを目的として、「歯周病専門医研修カリキュラム」をまとめました。

今後、歯周病専門医資格を取得しようとしている各位におかれましては、歯周病専門医制度規則、同施行細則、同審査施行細則、ならびに日本歯周病学会専門医・指導医の理念と合わせ、本研修カリキュラムを参考にして研修を積まれることを期待します。また、このような歯科医師の指導に当たられる指導医・専門医の各位におかれましては、本研修カリキュラムを参考にして広範かつ充実した研修の指導を実施していただきますようお願いいたします。

令和3（2021）年6月
特定非営利活動法人日本歯周病学会
理事長 小方 頼昌
認定医委員会委員長 山本松男
専門医委員会委員長 吉成伸夫

1. 一般目標（GIO）

歯周病学を通して国民の口腔保健の増進に貢献するために、歯周病学に関する基本的知識を身に付け、医療現場にて適切かつ迅速に対応するために必要な知識、および標準的な技能と態度を修得する。

2. 到達目標（SBOs）：

□歯周病学や歯周病治療の基本的な知識および技術

- 医療安全に配慮した歯科医療を提供し、歯科医療に対する歯科医師の責任について説明できる。
- 歯周病の診断、分類について「新分類」を用いて説明できる。
（歯肉病変、歯周炎、壊死性歯周疾患、歯周組織の膿瘍、歯周一歯内病変、歯肉退縮、咬合性外傷）
（Stage、Grade）
- 日本における歯周病の罹患状況について説明できる。
- 的確に標準的な医療を実践できる。

□歯周病学や歯周病治療への関わりと姿勢

- 医療面接を実践できる。
- 検査に基づいた診断ができる。
- 予後の判定・治療計画の立案、ならびに患者への適切な説明と同意取得を実践できる。
- 医科との連携を実践できる。
- 多職種連携を実践できる。

□患者の全身的、生活的、社会的背景への考慮

- 全身的因子と歯周病の関係について説明できる。
- 全身性疾患（有病者・糖尿病）患者、高齢者への適切な配慮を説明できる。
- 全身的、環境の各リスクファクターを勘案して歯周病治療を実践できる。
（特に高齢者、有病者：メタボリックシンドローム、肥満、糖尿病、高血圧、循環器疾患、透析患者、呼吸器疾患、妊婦、骨粗鬆症患者、喫煙者）
- 在宅医療が必要な患者に対し、適切な歯周病治療・口腔内環境の管理方法を提案し、実践できる。（セルフケアができる患者、一部介護、全介護患者に対する対応など）

□検査結果など客観的データや診断に基づいた考察

- 歯周基本治療、歯周外科治療、口腔機能回復治療、各ステージ後の再評価検査を説明できる。
- 歯周外科治療の実施条件を理解し、実践できる。
（①患者への説明が行われ同意が得られていること、②患者の全身状態がよいこと、③患者の口腔衛生状態がよいこと、④喫煙していないこと）
- 根分岐部病変に対し、適切な検査と診断からの治療を実践できる。
- 細菌感染、咬合力に関する配慮を勘案した適切な治療法（固定・ブリッジ・義歯・インプラント）を選択、実践することができる。